

地域医療患者支援センター・がん相談支援センターだより



秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 発行

第58号

入退院支援加算1 移行2年目を迎えて

センター長 飯島 克則



地域医療患者支援センター・がん相談支援センターのセンター長を拝命し2年目になります。

当センターは、入退院支援部門、地域医療連携部門、がん・遺伝相談部門、相談支援部門の4つの部門からなり、各部門には専門の知識を持つ看護師・ソーシャルワーカー・事務員を配し、総勢32名で精力的に活動しております。

新型コロナ感染が始まって3年目を迎えております。当初はこんなに長引くとは誰も予想していなかったはずですが、秋田県では、2021年末まで感染者数は比較的少なかったですが、2022年に入り1-4月と多数の感染者がみられるようになりました。こうした状況でも地域医療連携がスムーズに進むように、当センターでは後方支援病院への受け入れ調整を行ってまいりました。そこでは、転院先の病院にクラスターが発生し、患者受け入れが止まってしまったことや、大学病院でコロナ感染者（クラスターではない）が出たとの理由で、大学病院からの転院を拒否されるなど退院調整に難渋するケースもありました。敵（ウィルス）が見えない感染症対策は非常にやっかいで、ちょっとしたことで現状の医療システムがうまく回らなくなってしまう危険を感じました。

昨年度は当センターが主導し、病院全体として入退院支援加算1（600点）を算定する体制へ移行しました。これは、数年前から準備してきた大きな事業で、初年度にそれがうまく軌道に乗り安堵しております。新規加算への移行は順調に進み、昨年度末には全入院患者の7割に算定するという成績で、他の全国の大学病院と比べて（3-4割程度）、非常に高い数字を残しています。その結果、年間数千万円に及ぶ新たな収益を上げ、病院経営に貢献できたと考えております。これも各部署の職員の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。今年度は、新規加算移行2年目であり、しっかりとシステムを根付かせ、必要に応じて改良を加えつつ、無理なく持続可能なものとしていきたいと考えています。そして、最終的にはこのシステムの本来の目的である病棟・入院前支援と後方支援・外来看護師がつながりをもって患者さんをサポートすることで、満足度の更なる向上につなげたいと考えています。さらに今年度は、入院前支援の内容を拡充すべく、外来での予約制を導入したいと考えております。最後に今年度も当センターの活動にご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



ご挨拶

副センター長・看護師長 須藤 貴子



今年度より、当センターの副センター長に就任いたしました。

入院前から退院後まで「その人らしい」暮らしを途切れさせないために、良好なコミュニケーションを基本に顔の見える連携を大切にしていきたいと思っております。

スタッフ一人ひとりには役割を発揮し、センターでは関係機関や部署と連携を図りながら、患者サービスに努めて参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 センター活動目標



1. 入退院支援、地域医療連携、がん・遺伝相談、相談支援の4本柱を軸として、院内外の各部門及び 関係機関との連携を強化し、患者サービスの向上を図る
2. がん、遺伝、難病等に関する相談対応の周知とネットワーク構築を推進し、相談支援の充実を図る

入退院支援

- ・入院前支援の予約化導入
- ・患者用説明動画の導入
- ・身寄りがない人の支援に関するマニュアル（仮）を作成

地域医療連携

- ・FAXによる紹介予約業務の効率化

がん・遺伝相談

- ・専門・認定看護師や多職種との連携による相談対応
- ・毎月1回のがんサロン開催

相談支援

- ・患者さんからの苦情、相談対応・支援
- ・難病に係る相談・支援

～新しいスタッフのご紹介～

FRESH!

よろしく
お願いします

医療安全管理部GRM 小林育子 看護師長

4月から担当者になりました。
様々な患者さんに安心して安全な医療が提供できるように、サポート的な役割を果たしていきたいと考えております。
どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤大樹 看護師

4月から配属になりました。
患者さん・ご家族の思いに寄り添った退院支援ができるよう多職種と連携し、誠心誠意関わっていきたくと思います。
よろしくお願いいたします。

佐々木典子 看護師

4月より配属されました。
1日も早く患者さんの安心・納得のために働ける人材になれるよう、努力と経験を重ねていきたいと思っております。
よろしくお願いいたします。